

ヤフー、メッセージングシステム統合OSS 「OpenMessaging」開発に参画

[OpenMessaging ウェブサイト](#) (外部リンク)

ヤフー株式会社（以下、ヤフー）は、異なるメッセージングシステムを統合するオープンソースソフトウェア（以下、OSS）「OpenMessaging」の開発に、2019年1月より参画します。



「OpenMessaging」は、「Apache Pulsar」「Apache Kafka」といったOSSなど、さまざまなメッセージングシステムを統合するミドルウェアとしてオープンに開発されています。異なるアプリケーション間のデータ連携を行う際、メッセージングシステムが異なると、互換のための実装コストがかかり、システムも複雑化してしまいます。「OpenMessaging」は、これらの技術課題を解決する共通のインターフェースとなります。

100を超えるサービスを抱えるヤフーは、それぞれのサービスに適したメッセージングシステムを選択しています。そのため、自ら開発に参画する「Apache Pulsar」（※1）のほか、

「Apache Kafka」「RabbitMQ」など複数の異なるメッセージングシステムを利用しており、サービス間のデータ連携を進めるにあたり同様の技術課題に直面していました。

そのような背景に加え、「Apache Pulsar」を始めとしたさまざまなOSSへの貢献活動が評価されたこともあり、開発メンバーに参画する運びとなりました。

ヤフーも企業間ビッグデータ連携の実証実験を2018年2月に発表（※2）していますが、ヤフーに限らずビッグデータの利活用が進むことで、今後企業間・サービス間のデータ連携の拡大が想定されます。その際に顕在化すると考えられる技術課題の解決に寄与すべく、

「OpenMessaging」の改善・標準化に貢献してまいります。

なお「OpenMessaging」には、Alibaba, Didi, Yahoo, Streamlioなど、12社が既に開発メンバーとして参画しています。

ヤフーは、「データの会社」を目指すために、世界的技術トレンドを踏まえた、モダンなテクノロジーの選定・活用を進めています。

「OpenMessaging」に限らず、これからも引き続きOSSコミュニティへの貢献を通じて、技術力を高め、より利便性の高いサービス提供を追求していきます。

※1「Apache Pulsar」は、ヤフーが主要な開発メンバーとして参画しているメッセージングシステムOSS。2018年9月、世界的に著名なOSSコミュニティ支援団体「The Apache Software Foundation」のトップレベルプロジェクトに認定されました。（2018年10月16日）

※2ヤフー、AIを活用した企業間ビッグデータ連携の実証実験を本格的に開始（2018年2月6日）